

あとがき

〈編集顧問〉

太田 保世
諏訪 邦夫
堀江 孝至
村山 正博

〈編集委員〉

相澤 久道
和泉 徹
小川 聡
永井 良三
平山 篤志
三嶋 理晃

〈編集協力委員〉

赤石 誠
赤柴 恒人
北風 政史
近藤 哲理
中沢 潔
(五十音順)

今回の特集は、「間質性肺炎治療法の新展開」であるが、特に特発性肺線維症(IPF)に重点を置いて、この方面でご活躍の7人の先生方から優れたreviewが寄せられた。

海老名雅仁先生は、IPFが難治性である原因として、病態の主体が可逆性に乏しい筋線維芽細胞であること、線維化病変においては治療薬を運搬すべき毛細血管や、治癒過程に必要なリンパ管が消失していることなどを挙げ、これらを視野に入れた治療法の開発が必要であるとされている。

本間栄先生らは、N-アセチルシステイン(NAC)は抗酸化作用と、活性酸素のスカベンジャーとして働くと同時に、炎症性サイトカインの産生を抑制して、肺の線維化を防ぐ作用があり、臨床的にはIPFに対するNAC吸入の有用性を示す報告が複数あるとされている。

白杵二郎先生は、ピルフェニドンはCOX阻害作用を有しない抗炎症薬として開発されたが、炎症性サイトカインの抑制、PDGFやTGF- β といったgrowth factorの抑制作用があり、大規模臨床試験ではIPFの肺活量の低下を抑制する結果が出たとされている。

須田隆文先生は、従来IPFの治療として、免疫抑制剤はステロイド薬との併用を中心として遂行されてきたが、免疫抑制剤を治療薬として推奨するためには、今後本剤を用いたRCTなどの質の高い臨床試験によってその有効性を確認する必要があるとされている。

服部登先生は、IPFの病態には凝固系の亢進と線溶系の抑制が強く関与しており、抗凝固・線溶療法の有用性が動物実験で確認されており、今後、臨床試験が出来るだけ早く実施され、実臨床への応用されることを期待されている。

西岡安彦先生らは、チロキシキンナーゼ阻害薬であるイマチニブが、PDGF阻害活性、TGF- β の阻害作用により、前臨床試験では抗線維化効果を示すことが明らかにされ、臨床応用が期待されるとしておられる。

阿部信二先生らは、ポリミキシンB固定化線維カラムは血中のエンドトキシンを吸着するのみならず、活性化好中球の吸着や他の致死的なメディエーターの吸着を通じて、IPFの急性増悪やDADの救命に有用な場合もあるとされている。

IPFは呼吸器疾患のなかでも最も治療が困難な疾患の1つである。まだまだ越すべきハードルは高いが、多くの新規治療が提唱されており、その発展が期待される。
(三嶋理晃)

呼吸と循環 (第58巻 第4号)

2010年4月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,730 円(本体 2,600 円+税 5%)

(2010年、年ぎめ予約購読料 31,800 円
電子ジャーナル閲覧オプション付 41,400 円
(税込み、配送料弊社負担))

E-mail: kotojun@igaku-shoin.co.jp

Web http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/kotojun

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5703

(担当: 樋川・今田)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 三美印刷株式会社 電話 (03) 3803-3131

広告申込所 (株) 医薬広告社 電話 (03) 3814-1971

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2010, Printed in Japan.

• 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCOPY (株) 出版者著作権管理機構 委託出版物

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(株)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。